

今後の計画

◇ 豊明団地集会所棟 → 地域医療福祉拠点施設へ改修

- ・地域医療連携センター【豊明市・近隣自治体・医師会ほか】
- ・**Robotic Smart Home【大学・県内大手企業】**
住宅用介護ロボット開発、モデルルームにおける実証研究
- ・コミュニティスペース【UR】

◇ 居住環境の整備

- ・中層住棟へエレベータ設置【UR】
- ・健康寿命サポート住宅の供給【UR】

◇ 学生居住

- ・毎年20戸ほどを学生居住用に改修【UR】
- ・4年間で（2018年までに）学生80～100名居住体制

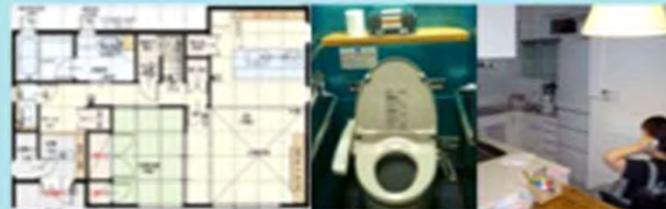
◇ 全国団地×大学 地域包括ケア研究大会開催

- ・H28年8月27日 藤田保健衛生大学にて開催予定



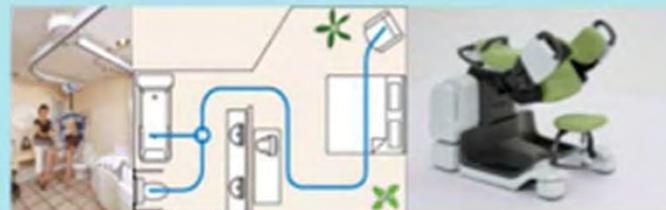
空間デザイン

ロボットが活躍できる
空間性をデザイン
団地住人に居住してもらい実証



移乗移動支援

介護支援ロボットのうち
必須かつ難課題である
移乗介助ロボットを製品化



サーバント

総合支援のための
操作代行とIoT連携役となる
サーバントロボットを製品化



コミュニケーション支援

居ながらにして外界に繋がり
参加型健康増進を支援する
テレビ型機器を製品化



実証実験

健康長寿支援ロボットセンターが
ポータルとなりロボット開発者に
真の在宅実証機会を提供

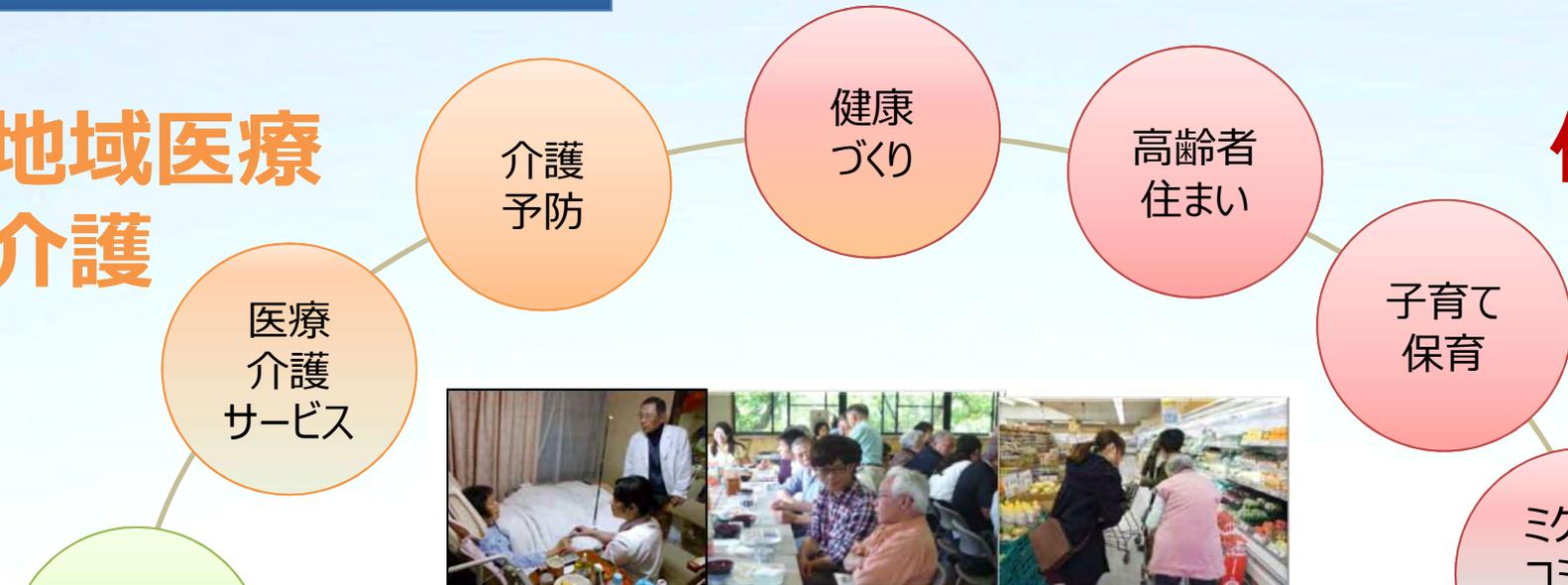


産業への波及効果

在宅介護実証実験モデルを構築し、プロジェクトを超えて
県内企業が開発するロボットの実証実験を支援

- 介護ロボット機器だけでなく機器を活用する環境や介護手法を合わせてトータルに提案することで、**新しい介護の姿を示す**。
- 普及の**初期段階**では、**介護施設や病院等の施設**を中心に導入していく。その後効果検証を重ねながら**アーリーアダプター**となる**個人居宅**への導入を推進していく。
- 県内住宅や施設への優先的な**モデル展開**によって**先端介護県**としての愛知県を内外にアピール。医療福祉産業を更に活性化する。
- 健康長寿支援ロボットセンターと連携し、県内個別企業の開発機器の評価を支援し、**県内企業の機器開発を促進**する。
- 居住性の高いロボティクススマートホームを実現し、同様に居室面積が狭いアジア諸国市場で有利な知見を蓄え、**アジア諸国への販売モデル**を構築していく。

地域医療 介護



豊明団地 けやまいきいきプロジェクト

地域包括ケアをキーワードに
地域資源の持つ力を結集

住まい 地域



サービス 次世代産業



教育 人材確保